

会 議 要 録

会 議 名		令和3年度 第2回 小平市青少年問題協議会
日 時		令和3年9月22日（水）午後1時30分～午後3時00分
場 所		小平市中央公民館 学習室4
出席者等	委 員	14名（欠席者3名）
	事務局	子ども家庭部長、教育指導担当部長、家庭支援担当課長、地域学習支援課長、生活支援課長、子育て支援課子ども・若者支援担当係長
傍 聴 人		1名
会議内容	1 開会 2 議 事 (1) 小平市子ども・若者計画の令和2年度推進状況について 3 情報交換・意見交換 4 その他 5 閉 会	
配付資料	会議次第・席次表 小平市子ども・若者計画推進状況報告書 ー令和2年度事業実施状況ー 若者応援ガイドブック	

○ 会議内容等についての意見・質疑応答

1 議事

(1) 小平市子ども・若者計画の令和2年度推進状況について

委員	児童扶養手当と児童育成手当の違いは何か。
事務局	児童扶養手当は国の制度であり、また、児童育成手当は東京都の制度であり、どちらもひとり親家庭若しくは親に重度の障害がある家庭に対して、手当として支給される。違いとしては、児童育成手当の方が所得制限の基準が緩やかであるため、児童扶養手当が所得制限により対象とならない者でも児童育成手当の対象になる場合があり、国の制度を補完している。
委員	新型コロナウイルスの影響を受けて実施した給付金などの事業は、国の補正予算で実施しているのか、それとも市の財源で実施しているのか。
事務局	ひとり親世帯臨時特別給付金は、国の補正予算により予算化されて実施したものである。一方で、児童養護施設退所者等特別給付金は市の独自の事業であるが、国からの地方創生臨時交付金を活用して実施している。
委員	ひとり親家庭学習支援事業は、集合型会場が4ヶ所設けられているが、会場の場所はどこか。
事務局	会場の場所は、利用者に配慮し非公表としているので申し上げられないが、東側、西側、北側、南側と、バランス良く設けている。

3 情報交換・意見交換

委員	<p>スクールソーシャルワーカーは中学校に1名配置されているが、難しい相談に対応し、また、校外での活動も多いので、人手が少ないのではないかと感じている。できれば小学校にも一人配置して欲しい。今は新型コロナウイルスの影響もあり、悩んでいる子どもがたくさんいるので、ぜひ検討してほしい。</p>
事務局	<p>スクールソーシャルワーカーは、学校の中から社会資源に繋げていく役割であり、関係機関とも連携しながら子ども達の支援にあたっている。スクールソーシャルワーカーの配置には、国や東京都の財政的な支援が必要であるため、そういった面も勘案して考えていかなければいけない。</p>
委員	<p>若者に必要な情報が行き届かない現状があるため、若者応援ガイドブックの発行は非常に良い。こういったガイドブックを通して、必要な支援を行える体制づくりが大切だと思う。</p> <p>また、悩んでいる若者自身がこのガイドブックを手にとり、自ら行動していくきっかけになったら良いと思うので、効果的な配布や広報をしてほしい。</p>
委員	<p>思春期から青年期までのさまざまな事業が行われていることを知った。一方で、事業に参加している若者は、もともと社会教育に興味がある層にとどまっていると思う。</p> <p>若者の現状として、コロナ禍において学校に登校できず孤立化することにより、さまざまな問題が発生している。そこで、地域の中で居場所をつくるのが大切だと感じた。若者がそこで様々な年代の地域の人々に関わることで、若者自身の視野や考え方も広がっていくと思う。具体的には、若者が企画段階から考えて実行する事業の実施や、公民館等の施設利用を市外の若者に対しても認めるなどしてはどうかと考えた。</p>
委員	<p>思った以上に子ども・若者を支援する事業があることを知った。コロナ禍で助けが必要な子育て世帯は多くなっているが、市民がこのような事業を知る機会があまりないと思うので、上手に広めていくことが大切だと思う。そういった周知の方法として、若者応援ガイドブックはとても良い。保存版としても良いと思う。</p>
委員	<p>若者応援ガイドブックは、進路に悩む学生にとっても活用できる良いものだと思う。広報の方法として、学生が市の施設等に行く機会は限られているため、インターネット上での閲覧や、ツイッターでの発信をしてもらいたい。</p> <p>また、公民館の事業について、公民館の利用者は高齢者が多いことから、企画される事業のほとんどが高齢者向けであり、学生の参加が少なくなっている現状がある。学生がもっと積極的に活動に参加できる環境があったら良い。</p>
委員	<p>青少年リーダー養成講座の開講式を4月に行ったが、その後は新型コロナウイルスの影響により講座の中止や延期が続いた。ずっと講座が実施できない状況を何とか変えたいと思い、事務局や他の青少年委員と相談し、リモートでの講座を実施することができた。受講を楽しみにしてくれていた子どもたちの姿が見られ、実施できて良かった。今後も新型コロナウイルスの感染拡大状況等を見ながら、対面での講座が困難であればリモートでの講座を続けていきたい。</p> <p>推進状況報告書の内容を青少年委員の定例会でも周知したいが、この資料</p>

	は市ホームページで閲覧可能か。
事務局	推進状況報告書の内容は、10月から市ホームページで閲覧可能となる。
委員	<p>青少対活動について、いろいろな企画はするが、コロナ禍なので人を集めて行うことが難しい。以前のように人を集めてイベントが実施できるようになるまで、情報発信だけは継続して続けていきたい。</p> <p>また、保護司として、若者の自死を何とか防ぎたい。小平市では、スクールソーシャルワーカーの活動等により、学校環境を良くしていこうと努力してくれている。今後も子ども達が過ごす環境を良くする活動を続けていきたい。</p>
委員	<p>民生委員・児童委員の子ども達に関する活動として、小中学校への学校訪問を行っている。そこでは、先生方と民生委員・児童委員との間で情報交換を行い、子ども達にどのような支援ができるかを模索している。</p> <p>また、書面開催で行われた地区連絡協議会では、子どものゲーム障害をテーマに取り上げた。今後子ども達は、学校から授業で使用するタブレットを1台渡されることになるが、使い方を間違えると様々な問題が生じる恐れがあるため、見守っていかなければいけないと考えている。</p>
委員	<p>都立高校では今週オンライン学習を実施しているが、生徒の保護者から、コロナ禍において登校させる、あるいは登校させないことについて、様々なご意見をいただきながら日々対応にあたるという状況が続いている。また、学校行事については、昨年度に引き続き今年度も中止または延期となっている。</p> <p>そのような中で生徒達もストレスが溜まってきていると思われるので、若者応援ガイドブックを活用するなどして、生徒達のケアができればと思っている。</p>
委員	<p>中学校についても学校行事は中止または延期となっている。また、複数の学級が集まることができないため、朝礼や集会もテレビ放送で実施している状況である。コロナ禍でも、子ども達のために工夫しながら教育活動を実施している。</p> <p>市からの情報発信として、SNSを活用して発信していただくことは、悩みを持つ中学生やその保護者にとっても情報が届きやすく有効と考える。</p>
委員	<p>市が実施している幅広い事業は、若者への支援を繋いでいけるものだと思うので、若者応援ガイドブックも含めて今後活用していきたい。</p> <p>GIGAスクール構想により子ども達にタブレットが配付されている中で、当庁でも、いじめや薬物乱用をはじめ、様々な課題に対応するコンテンツをとりまとめて情報発信している。そういった各方面の取組が重なり合っていけば、若者の健全育成に貢献していけるのではないかと思います。</p>
副会長	<p>私に関わっている小学校では、不登校の子どもたちへの支援として、ペアレントメンターの方が親御さんの相談相手になるという活動を始める。ペアレントメンターとは、障害児を育てた経験のある良き相談相手という意味である。この活動が上手くいったら報告させてもらいたい。</p> <p>また、小平市が161もの子ども・若者に関する事業を行っているということを知ることができた。もっといろいろな方にこれらの事業を活用してもらいたい。</p>
会長	<p>コロナ禍で困難を極めながらも、小平市が工夫して事業を実施していたことがわかった。他自治体と比較しても、小平市は子ども・若者に対する支援</p>

	<p>が手厚いと感じている。例えば、小平市では学校が地域の方を学校の中へ招き、連携して子ども達の支援にあたる体制を昔から築いているが、今からこれをやろうとしてもなかなかできることではない。</p> <p>本日も各委員から様々な視点で話をいただいたので、今後の施策の参考にしていきたい。</p>
--	--